

2024/10/28 (月)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 5章 1-3節 (新約聖書 6頁)

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが御もとに来た。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えられた。

心の貧しい人々は、幸いである

天の国はその人たちのものである。

貧者の一灯

心の貧しい人がなぜ幸いなのでしょう。心の貧しい人と言えば「ひとり占めする人」「情けのない人」が浮かんできます。幸いな人とは思いやりがあり、優しい人で、心の豊かな人と言うのではないのでしょうか。それが幸いだと思います。

ところが、「心の貧しい人」を英語では“they are spiritually poor” “who know their need of God”です。「霊的に貧しい人」「神様が必要だとわかっている人」です。ですから幸いとは道徳的に立派な人、知識や知恵のある人、成功した人という意味ではありません。

実は日本語の聖書にも心の貧しい人を「自分の貧しさを知る人」「ただ神により頼む人」と訳している聖書があります。目に見えるものしか信じない、この世の報いしか求めない、傲慢な自分を知っている、それが神と人との関係で誠実な人、心の貧しい人です。

神学生の頃、神学校の寮では日曜日の夕食は出ませんでした。いつも実習先で寡黙なご高齢のご婦人が手弁当を持たせてくれました。年金生活で大変だったはずですが、おかずも京都のおぼんざい、薄味で質素でした。いただく度に、ご婦人の祈る誠実な姿が浮かびました。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、十一月も間近となり、ようやく衣替えとなりました。夏服がまだ恋しい季節ですが、体調に気をつけて共に学ぶ喜びに与らせてください。これから収穫感謝、施設訪問、讃美歌コンクール、学校クリスマスとあっという間に時が流れます。見えるものに心奪われ、報いを求める自分に気づき、誠実にあなたと隣人（となりびと）と向き合うことができますように導いてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン